

会 議 録

会議の名称	平成26年度第3回清須市健康づくり推進協議会
開催日時	平成26年10月30日(木) 午後1時30分～午後3時
開催場所	清須市清洲総合福祉センター2階第1会議室
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. あいさつ 2. 清須市の現状について(資料1～2) 3. 第1次計画の評価について(資料3) 4. 健康課題と解決策について 5. その他
会議資料	資料1 清須市の現状 資料2 健康に関するアンケート調査結果 資料3 分野別の目標指標 <参考資料> <ol style="list-style-type: none"> 1-1 (母子)母子保健事業 1-2 (成人)成人保健・健康増進保健事業 1-3 (高齢)介護予防事業 2 健康づくりをみんなで考える会(市民ワークショップ) 3 健康日本21清須計画推進に関する各課実務者会議について 4 平成26年度健康日本21清須計画推進事業について 5 意見交換会(グループインタビュー)の結果の概要 健康日本21清須計画<概要版>
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	0人
出席委員	加藤委員、鬼頭委員、辻委員、山内委員、関委員、伊藤委員、奥山委員、波多野委員、村上委員、川原崎委員、大池委員、鈴木委員
欠席委員	小川委員、後藤委員、近藤委員
助言者	岡本和士 氏
事務局	濱島部長 [健康推進課] 田中課長、森川主幹、武居課長補佐、佐古副主幹、寺社下副主幹 [高齢福祉課] 古川副主幹 [その他] (株) サーベイリサーチセンター(山村)
会議の経過 《要旨》	<ol style="list-style-type: none"> 1. あいさつ 濱島部長：今年もあと2か月あまりとなりました。お忙しい中、ご出席いただき、ありがとうございます。 さて、本日は、健康日本21清須計画の達成状況等をご確認いただきます。 よろしく願いいたします。 2. 清須市の現状について(資料1～2)

3. 第1次計画の評価について（資料3）

4. 健康課題と解決策について

事務局より、資料1、参考資料1～5、資料2のアンケート調査報告書追加部分（自由意見）の追加について及び資料3を一括説明。

加藤会長：事務局からたくさんの説明がありましたが、何かご意見やご質問がありますか。

大池委員：確認ですが、アンケート調査は、昨年との比較から分析されているのですか。

資料3のたばこについて、20代女性が下がって目標達成となっていますが、アンケートは同じ人を対象に聞いたわけではないですね。

事務局：前回調査は、平成22年度の調査で、昨年度の調査ということではありません。

同じ人に調査しているわけではありませんが、同じ年代の人を無作為に抽出して調査した結果で分析しています。

大池委員：回収率が50%を下回っているアンケート調査結果ですので、◎、○などをつけて評価することに意味がありますか。また、書かれている目標は行政的で、非常に希望的な目標だと思います。達成目標として位置付け、そのために何をするのか、評価時に、たまたま高かったなどの特異的な結果があるかもしれないので、そのあたりも分析する必要があると思います。アンケート調査結果による評価項目が多すぎて、評価に意味がないのではないかと思います。

加藤会長：アンケートの回答率が適正なのかどうか統計処理の問題、第1次計画をふまえて長期的な戦略についてどう評価していくのか等についてのご意見ですが、事務局どうですか。

事務局：アンケートでないと把握できない内容があるのも事実です。アンケートについては、資料3の冒頭に評価の考え方を説明していますが、検定結果に基づいて評価しています。例えば、たばこについては、妊婦の喫煙を無くすということで、健診受診時に継続的に把握していますが、あまり変化がありませんでした。これをどう評価するかは難しいですが、検討していきたいと思います。

加藤会長：個々の生活習慣などはアンケートにたよらざるをえない部分があるのも事実ですね。その他、いかがですか。食生活改善の視点から、伊藤委員いかがですか。

伊藤委員：参加してくれている人は興味を持っている人なので、講座等も一生懸命聞いてくれますが、そこに出てきてもらうためにどうするかが問題です。若い人は広報も見ないので、どうPRするかが課題だと思います。

加藤会長：アンケートにお答えいただいている方は関心が高いと思われるので、そうした偏りがあるかもしれないですね。

川原崎委員：シルバー人材センターで創造センターのお手伝いをしていますが、特に高齢者は、市の各施設を土日もやってくれたらいいのという希望がありますが、市としてどうでしょうか。

事務局：高齢福祉課、併せて市としてどうかということについては、この場ではお答えできませんが、アンケートの自由意見にも、休日への希望がありますので、今後の課題としていきます。

辻委員：資料1の34ページ、糖尿病のところをみると、患者が5人から6人に増えています。しかし、資料3の8ページの6では評価が「◎」となっていますが、評価はこれでいいのでしょうか。

事務局：新規透析導入者は3人から6人に悪化していますが、人口10万対の指標では減

少していることとなります。

加藤会長：資料3の8ページ、3人で人口10万対が17.8とはならないので、何かおかしいのではないのでしょうか。

岡本先生：およそ人口の3分の1である国保加入者のみで算出しているのので、人口10万対の指標はそういう形で算出されていると思われま。

加藤会長：心とからだの健康づくりは、重要な課題となっていますが、村上委員、何かありますか。

村上委員：社内の喫煙率をみても全国的に地域によって大きな差があります。今回のアンケートも地区別でみると差があるところがあるのではないのでしょうか。そうした分析ができると良いと思います。報告書の36ページには地区別の内容が紹介されているので、他にも何かあればと思います。

加藤会長：地域や手段での特異性が何かあればということですね。喫煙について、奥山委員、何かありますか。

奥山委員：私は小学校から喫煙の害を伝えていく必要があると思っていますのすが、学校ではなかなか話をする機会をつくってもらえないのが現状です。話をする機会をもっとあればと思います。

鬼頭副会長：アンケートに答えていただいた方は、アンケートの内容への関心が高まり、自分の生活習慣の改善につながる部分があると思います。アンケート等については、もっと情報提供していかないといけないと思います。たばこは、歯周病や糖尿病など、いろいろな病気とのつながりがありますが、一度喫煙をはじめたらやめにくいので、やはり早期に啓発する必要があると思います。

鈴木委員：愛知県の新計画にも、喫煙の目標を細かく設定しています。これを参考にして、きめ細かい目標設定をしていただければと思います。また、愛知県は、野菜の摂取率が全国最下位なので、そうした点も啓発してほしいと思います。アンケートへの意見もありましたが、件数が少ないと評価が厳しいので、実績数値なども含めて総合的に目標設定していくとよいと思います。

波多野委員：母親や赤ちゃんにお会いすることが多いのですが、最近では、母親が、片手に携帯電話、片手に赤ちゃんという状況をみると心配になってしまいます。

加藤会長：中毒症になるのは、たばこやお酒だけではなく、携帯電話でもありますね。自由意見の中には、あしがるバスについての意見もありましたが、高齢者の代表として山内委員いかがですか。

山内委員：私も、たばこが気になります。喫茶店で、子どもをつれた母親が、喫煙している場面をよくみます。自覚を持ってもらうしかないのので、計画の中でも情報提供をしていくことが必要だと思ひます。市が一生懸命に広報を作っても、多くの人が見ていないというのも情けない現状だと思ひます。

関委員：健康に関して商工会では、女性が主に取り組んでいます。たばことお酒の販売について、自動販売機が何とかならないのかと思ひます。自動販売機があると、青少年も買ってしまうのではないのでしょうか。たばこもお酒も、大人が子どもに教えている現状があると思うのので、そうしたことを変えていかなければならないと思ひます。

大池委員：子どもを見てきた人間としては、子どもの価値観も多様化しており、多くの子どもが自分本位になってきていると思ひます。親自身が、自分がやりたいことをやる生活が中心になっており、そのライフスタイルに子どもが合わせる形になっているのだと思ひます。今回の計画では、たばこでも、お酒でも、1つの課題を

大々的に啓発・PRして改善をめざすというやり方をしていくと良いのではないかと思います。

鈴木委員：参考資料4に、いろいろな事業や取組が記載されているので、こういう形で進めて行ってほしいと思います。

加藤会長：これから計画策定に入っていきますが、市の計画に対して何かアドバイスがありますか。

鈴木委員：2010年、全国の健康寿命では愛知県は男女ともトップに入っていました。これは日頃の皆さんの努力の賜物だと思います。新しい計画では、野菜の摂取が少ないこと、肥満が多いこと、地域で運動の推進などをお願いしたいと思います。小学校から、たばこや危険ドラッグについても啓発していただければ良いと思います。

加藤会長：さまざまなご意見ありがとうございました。では、助言者の岡本先生よりお話をいただきます。

岡本先生：今日は、いろいろな問題がでてきました。何かポイントを決めて進めていくことも必要だと感じました。私が注目したのは、女性の死亡率が高いことです。アンケート調査結果からも、女性のストレスが大きい現状がみられます。仕事や家庭など、複合的なストレスが大きいことが考えられるので、対策が必要だと思います。母親のストレスが大きいと、子育てへの力が出なくなるので、子どもへの影響も考えられます。学校で調べてみますと、女性の喫煙者の多くは母親が吸っているケースが多いことがわかります。そうした意味でも、女性に対する禁煙教育は重要だと感じました。また、男女ともに30歳代の健康に課題が多いので、ここにポイントを絞った健康対策をすると良いと思います。

加藤会長：ありがとうございました。

5. その他

事務局：熱心なご議論、ありがとうございました。次回のご案内ですが、第4回健康づくり推進協議会は、11月25日（火）で開催を予定しております。

以上で、閉会。

会議の経過を記載して、その内容に相違ないことを証するためにここに署名します。

署名委員

波 多 野 眞 純 ⑩

伊 藤 千 里 ⑩

会議の結果	会議の経過に示したとおり
問い合わせ先	健康福祉部 健康推進課 052-400-2911 内線4360